

Q&A

新型コロナ「5類」とマイナ保険証について



堀 譲 議員  
YUZURU HORI



**問** コロナ「5類」への移行について

**答** コロナ感染症が確認されて3年3ヶ月が経つ。ワクチン接種の浸透、マスクの着用、消毒の励行などによって感染者が減少し、季節性インフルエンザと同じ「5類」の位置づけになった。そのことにより、医療費負担、ワクチンの扱いはどう変わるのか。

**問** 今まで公費負担となっていた診療費用は、健康保険が適用され自己負担となる。ワクチン接種は、令和5年度も引き続き公費負担で実施しており、令和6年度以降の国の方針は未定である。

**問** コロナが収束したわけではなく、緩やかな増加傾向にある。WHOも警戒を怠らないよう呼びかけているが、この状況下での対応をどう考えるか。また、「平時」の時こそ感染拡大に備えるべきだと思つが対策はあるのか。

**答** 厚労省は、感染対策は個人の判断としているが、市としては、これまでの取り組みを生かした感染対策を行っていく。また、今後も、感染動向を注視し、兵庫県や医師会等との連携を密に図り、感染拡大に備えた医療体制が整備できるように協議する。

**問** マイナ保険証について

**答** 来年秋に、健康保険証を廃止し、マイナンバーカード保険証に移行する「改正マイナンバー法」が成立した。しかし、その後もトラブルが続いている。そもそもマイナ保険証とはどのようなものなのか。

**答** マイナンバーカードを健康保険証とひも付けの登録をすることにより、マイナンバーカードに保険証と同等の機能を持たせたもので、スムーズに資格確認ができ、過去の医療データに基づき、適切な医療を受けられるメリットがある。なお、令和6年秋の健康保険証廃止以降、マイナンバーカードで資格確認ができない者には、申請により、保険者が資格確認書を交付することにより、保険診療で済むようになる。

Q&A

有機食材を活用した食育について



肥塚 康子 議員  
YASUKO KOEZUKA



**問** 有機食材を活用した食育

子どもたちが毎日食する学校給食に有機食材を使用することが、子どもたちの健康のためになり、家庭での啓発など食育の主なポイントになると考える。その観点から以下について問う。

**問** オーガニック給食の実現には、部署を越えた協議・連携が必要と考えるが、その必要性についてどのように考えるのか。

**答** 今年度も季節に応じて玉ねぎ、キャベツ、じゃがいも、大根など10品目の有機野菜を使用する予定である。今後有機野菜の使用量を増やすためには生産者の育成が大切であり、有機農業を推進している農林水産課との連携が必要と考える。引き続き市内連携を図りながら子どもたち



に安心・安全で栄養バランスのとれた魅力ある学校給食を提供していく。

**問** 国も目標に掲げている有機農業に地域ぐるみで取り組む産地（オーガニックビレッジ）宣言について本市の考えはどのようなのか。

**答** 県下では現在4市が宣言を出しているが、本市において現時点では、宣言を行える状況でない。本市は、有機農業を推進するため環境に配慮し、化学肥料・化学合成農薬の低減に加え、自然環境の保全に取り組み団体を支援し、環境に優しい持続可能な農業の取組を推進している。有機農業は重要な施策のため、今後関連団体・生産者等と協議を行いつつ調査・研究していく。

オーガニックビレッジ



農林水産省HP「オーガニックビレッジのページ」より

その他の質問事項

● 学校や園、家庭での食育について